

## 県民からの意見について

## 1 県民意識調査

## (1) 概要

目的：県民の提案や要望を把握し、政策立案や計画策定に反映させるため毎年実施

対象：県内に居住する満18歳以上

調査対象者数：5,000人

## (2) 令和3年度の調査結果（未定稿）

## 【満足度の低い施策とその主な理由】

施策	満足度	「不十分」、「やや不十分」の理由	
社会減の抑制に向けた雇用の場の創出、人材育成・確保	1.98	若者がやりたいと思う職種、職場が少ないという意味では魅力的な働く場は少ないと思ってしまう。給料も低いのでなおさら魅力が減る。	企業が魅力を伝えられるように高校や大学での説明会の開催を活発にしてほしい。さらに、中学生にも秋田の企業を知ってもらえる機会を増やしてほしい。
若者の県内定着・回帰と移住の促進による秋田への人の流れづくり	2.30	学生は修得した専門分野を活かしたい志向が働き、どうしても地元に残らなければならない学生だけが県内にとどまっている感じがする。	大学生の県内就職に関して、長く働き続けられることや、福利厚生が充実した働きやすい職場であることなどの魅力を県内企業はもっとアピールすべき。
成長分野の競争力強化と中核企業の創出・育成	2.22	優秀な企業は多いが、地域経済を牽引できる企業があるのは一部の地域に限られる。	そもそも企業が少なく、単一商品を扱う業種が多い。多様性や総合性を持った企業を誘致するなり、作り上げるなりすべき。
国内外の成長市場の取り込みと投資の促進	2.16	秋田市周辺では進んでいるのかもしれないが、県全体で進んでいるようには思わない。	秋田県の賃金水準が低いことを理由に進出している企業もあると感じる。ただ誘致数を増やせば良いというものではないと思う。
産業人材の確保・育成と働きやすい環境の整備	2.28	高校の専門分野の教育がもう少し有用で社会で通用するものにするべき。	企業が増えても専門性や何かのインセンティブがないと、優秀な人材は県外に流出してしまう。

※満足度は「十分」、「おおむね十分」、「ふつう」、「やや不十分」、「不十分」の5段階で回答。「ふつう」を3点とし、点数化した場合の平均点を記載。

## 2 オンラインによる意見募集

### (1) 概要

目的：新プランに対する県民の提案や要望を把握するため、6月より意見を随時受付

内容：①秋田県が力を入れるべきこと（52項目）、②将来像、提案（自由記載）

周知方法：チラシ、県ウェブサイト、県公式 SNS（Twitter、Facebook）

募集方法：電子回答フォーム、メール、郵送、FAX で受付

### (2) 提出された主な意見

8月17日時点で117件の意見が寄せられている。

#### 秋田県が力を入れるべきこと（特に意見の多い項目）

- ・ 県内企業の賃金水準の向上
- ・ 若者に魅力的な働く場の確保
- ・ 結婚、出産、子育てのしやすい環境の整備

#### 提出のあった意見

##### [産業・雇用]

- 賃金水準の向上や、自分のスキルを生かせる雇用の場の確保等に関する意見が寄せられている。

##### (主な意見)

- ・ 若者等が地元に着定するためには地元企業の賃金水準向上が一番必要である。賃金水準の高い県外企業を誘致して就職場所の確保ができて喜ぶ人もいるが、これまで地域を支えてきた既存企業の求人に応じる働き手の減少や転職者の増加が目に見えている。賃金水準の向上が必要。
- ・ 秋田に住みたいのに、高い給与水準を求めるとどうしても地元企業ではなく全国企業を選択することになってしまう。結果として、まだまだ都市集中型の考え方が残っており、スキルアップしていくと中央に寄せられていく状況である。  
県内企業の強化、大企業の誘致に力を入れて高質な雇用を生み出し、経済的な豊かさと秋田で暮らしの良さを両立をできるようにしてほしい。

##### [農林水産業]

- 後継者の確保や優良な農地・森林などの維持等に関する意見が寄せられている。

##### (主な意見)

- ・ 担い手を確保できる土台を作らないと、農林水産業そのものの将来が危うい。
- ・ 本県の豊かな森林資源を適切に活用し木材産業の成長産業化を図ることには異論はないが、どんどん切り尽くしてはげ山になることに対して危機感を持って対応してほしい。今後大きな工場が来る話もあるので、責任を持って資源が循環できるよう考えてほしい。

[観光・交流]

- 地域交通の充実、大都市圏や海外とのアクセス性の向上等に関する意見が寄せられている。

(主な意見)

- ・ 郊外に出ると車がなくては生活できないような地域が多いと感じている。これから秋田県は高齢者が多くなり、自分の能力ではもう運転できないような人でも無理に運転してしまうことが多くなると思う。そのような人の事故を減らすためにも地域の交通の整備に力を入れてほしい。
- ・ 大都市圏や海外へのアクセスの悪さはビジネス環境としては致命的である。観光客やリモートワーカーの誘致のためにも、アクセスを充実させるべき。

[未来創造・地域社会]

- 若者の目線を重視する企業経営や県政運営、結婚・出産・子育てを考える上で重要となる生活の安定（賃金等）等に関する意見が寄せられている。

(主な意見)

- ・ 今の秋田には、大卒者が首都圏の便利な暮らしや多様な遊び場を投げ捨ててまでいたいと思うような魅力があると感じられない。若者の目線を取り入れ、これからを支える人に投資をしない限り秋田県に先はない。他県に見劣りしないような働く場の確保やその指導者が必要。

[健康・医療・福祉]

- 救急医療の充実、自殺を防ぐ環境づくり等に関する意見が寄せられている。

(主な意見)

- ・ 自殺を防ぐ環境づくりがすべての要素の改善につながると考える。

[教育・人づくり]

- 教員の指導力の向上、学校施設の整備等に関する意見が寄せられている。

(主な意見)

- ・ 少子化問題は深刻。子どもがいなければ学校運営も厳しい。特に地方は定員に満たなく、閉校や統合はやむを得ないと思う。しかし、地方に生まれた人が、高等学校の教育を選択できないようでは充実した教育とは言えない。  
そこで、秋田市や横手市に産業教育寮を設置し、農工商などの普通科以外の進学を希望する生徒の通学支援を提案する。このことにより、将来の夢とする職業に就くために希望する高等教育を受ける機会を全県域で網羅させ、地域や経済的な理由から希望校への進学を断念させないような取組は必要と考える。

### 3 知事と県民の意見交換

#### (1) 概要

内容：地域で活躍している方々を招き、県への提案等に関して知事と意見交換を実施

実施状況：6管内で計7回開催（8月20日現在）

※北秋田、山本については、今後の開催に向けて調整中。

#### (2) 意見交換会における主な意見

地域	テーマ	主な意見
鹿角	鹿角地域におけるヘリテージツーリズムの可能性等について	世界遺産登録の効果が一過性とならないよう、道の駅、宿泊施設、自治体等官民の連携が必要。オール鹿角で情報発信などソフト面の取組を進めていく必要がある。
		現在は学校で地域の伝統芸能を学ぶ機会があるが、数年後には高校の統合が控えている。広域化しても引き続き文化を継承する人材を育成していくための仕組みづくりが必要である。
秋田	6次産業化に取り組む農水産業の新たな動き	加工品については、空港や観光地の土産屋等での販売が売上の多くを占めているが、コロナ禍で県外からの観光客が激減したため、今はスーパーや百貨店での販売に力を入れている。時流にあった売り方、商品開発が重要である。
		農作業は力作業も多く男性中心になりがちだが、6次産業化に関しては、女性が責任のある立場で意思決定することもできる。売上や消費者の声がダイレクトに伝わってくることもあり、農家の女性が生きがいを持って活躍できる仕事だと感じる。このような点も若者に伝え、農業に興味をもってもらうことが重要ではないか。
秋田 (大学生)	コロナ禍でのマイクロツーリズムについて	コロナ収束後も、小さい子どもがいる家庭や高齢者など遠出が難しい人を中心に、マイクロツーリズムのニーズは一定程度残ると思う。アクセスが悪いところもあるため、電気自転車の貸し出しやマイクロバスの運行など観光しやすい環境整備に力を入れるべきではないか。
		酒蔵見学をした際に、杜氏の話聞きながら試飲する機会があったが、作り方等を知った上で飲むととても美味しく感じた。天候に左右されない屋内の体験型観光はニーズが高いのではないか。

由利	<p>チャレンジで農林業の未来を拓く ～地域で共に歩む農林業の新たな挑戦～</p>	<p>取引先の手外食チェーン等からは、リスク低減の観点から産地分散が求められており、他地域と連携して納入している。将来的な承継に関して、自地域内が行われるのが一番望ましいとは思いますが、連携を進めていく中で、法人間で引き継ぐ形も考えていかなければならない。</p>
		<p>学校統合で実業高校が減り、管内では農業・土木に関してそれぞれ1学年10～20人程しか教えることができないと聞いている。統廃合はやむを得ないと思うが、早い段階から多様な職種に興味を持つことは重要であり、学校の再編と併せてカリキュラムも検討してもらいたい。</p>
仙北	<p>儲けてカーボンニュートル！な林業・木材産業を目指して ～森林資源を活用した林業・木材産業の成長産業化のために～</p>	<p>ウッドショックの恩恵が末端の森林所有者に届いていない。今後の価格動向も不透明で森林所有者は伐採後に再造林する余裕がない。</p>
		<p>地元産の部材が豊富にある中で利活用が進まないのは、単価や施工事例等の情報を消費者が得ることができていないからではないか。そうした情報がオープンになりアクセスしやすくなれば、県産材がより多く県内外で使われるのではないか。</p>
平鹿	<p>若者に選ばれる魅力ある地方への道筋</p>	<p>スキルの高いAターン人材は会社の成長に必要であり、地域にとってもプラスになる。Aターン人材定着のための施策を積極的にやってもらいたい。給与に関しては、スキルの高い人とそうでない人で、格差があるのが実情である。</p>
		<p>製造部門は時間で貢献度を測りやすいが、設計開発部門は必ずしも時間で判断するのが適切でない場合があり、賃金にどう反映するか難しい。若手の給与を上げたが、先輩社員との逆転等の調整も必要で2年間かかった。更に上の世代となるとハードルが高く着手できていない。</p>
雄勝	<p>私がそこに住む理由 ～「誇り」を持てるまちの話をしませんか？～</p>	<p>海外での経験を踏まえても、湯沢ほど安全でコストパフォーマンスの高い町はほかにないと考えている。豊富な資源を生かし、付加価値を付けていくことが重要で、雪中貯蔵した農産物や酒等を雪のない地域に売り込むようなことをやってみたい。</p>

雄勝		自分にとっては身体が楽でストレスを感じないという点が秋田に住んでいる何よりも大きなメリットである。フリーランスとして働いているが、本業のほか、農業や林業の手伝いなども行っている。こうした地域の環境にマッチした暮らし方を求める人も多いと思う。
----	--	--

#### 4 今後の進め方

- ・ 総合政策審議会における議論や、寄せられている県民意見を勘案し、現在、骨子案を取りまとめ中。
- ・ 骨子案の取りまとめ後は、総合政策審議会の提言を基に、具体的な方策等を盛り込んだ素案を作成することになるが、オンライン等による県民意見の募集は引き続き実施し、県民からの意見も新プランに反映させていく。